

ニュースから考える

いじめ被害を訴えていた岩手県の中学2年が自殺した問題で、当初「担任から聞いていない。



いじめは否定できないが、あれば私に報告があるはず」と語っていた校長が7月26日の記者会見で調査の結果、いじめがあったことを認め「個々の教員が話をしやすい環境をきちんと

作れなかった」と謝罪しました。

新聞報道の言葉尻だけを捉えたと「いじめ報告をしなかった“責任”は担任」にあり「話しやす

い環境を作れなかった“責任”が自分にある」と聞こえます。

さらに2014年度はゼロとしていた「いじめ件数」を他の生徒の問題も含め3件に修正したと話し、当初の説明を撤回し他の生徒にもいじめがある事を認めました。最近発覚した某社の「不適切会計」のような業績操作なのか、又はこの校長自身の管理能力に問題があるのか・・・。

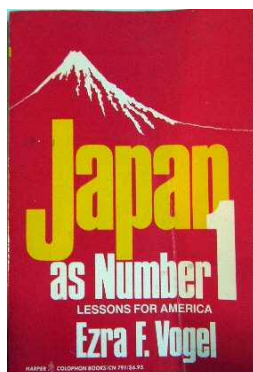
いじめは思春期の子供たちにとっては人生を左右する大きな問題です。たとえ大人であっても居心地や感じの悪い会社は不愉快なものです。

固定客が減っている・・・社員が定着しない等々は何らかの問題が水面下でおきている兆候なのかもしれません・・・。

1分でわかる業務カイゼン

「繁栄は続かない」

『ジャパン・アズ・ナンバーワン』・・・懐かしい響きです。1979年にハーバード大学教授のエズラ・ヴォーゲル氏が著書で発表した「これから日本の時代が来る」との予言通り Made in Japan は世界中を席卷しました。



ところが・・・21世紀に入ると韓国・中国などの新興勢力の技術力向上や基盤部品の共通化による価格競争が勃発、IT&電化製品の分野で日本企業の輝きは失われました。一方、勝ち組と思われた韓国企業の業績不振が最近話題となっており、まさに栄枯盛衰です。

「リーダーが間違うと」

最近、負け組ではないと思われていた東芝の「不適切会計」問題が大きく取り上げられています。そもそもテレビや新聞の見出しが間違いで「粉飾決算」問題ではないかとの疑問もありますが・・・。

この問題が深刻なのは歴代社長がこの件に関与している点です。本来は、部下の業績不振やミスをカバーすべき立場にありながら、リーダーであるトップ自ら業績を良く見せるために「チャレンジ」と称して不正を指示していたとすると自ら組織の根っこを腐らせた事になります。しかしながら、問題発覚のきっかけが内部告発という事なので救われる点もあります。

「リーダーが引っ張る」

業績が良ければ自分の手柄・・・悪ければ人のせいと考えるのは人間の性です。いじめの校長や東芝の社長に限らずわが身を振り返ると思いが当たる節があるのは私だけではないでしょう。

大きな企業では画期的な事業の開拓、新しい商品の開発等々を社員が自主的に行ってくれる事もあるでしょう。しかし、中小企業におい

てはリーダー自ら社員に率先して行動を示す必要があります。

リーダー（経営者）の責任はメンバー（社員）を叱咤激励

しながら上に向かって進んで行く事です。私たち中小企業発で **Made in Japan** が輝いていた時代を取り戻すきっかけを作りましょう。



事務所からのお知らせ

税制の動向など「税に関する情報」などをリアルタイムでインターネットに公開中です。

「手稲区 佐藤税理士ニュース」で検索するか、事務所のホームページ右下の **Facebook** をクリックしてご覧ください。



こちらをクリックすると「ニュース」が紹介されています。

今月のことば

栄枯盛衰は、人生の常である。順境はいつまでも続くものではなく、逆境も心の持ちよう一つで、これを転じて順境たらしめることもできる。

高橋 是清（第20代総理大臣）

編集後記：

ダメなリーダーのニュースが多い中、11年ぶりにシンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチに復活した井村氏の活躍に注目が集まっています。過去に日本を頂点まで育て、その後中国をトップレベルに押し上げた実力派のリーダーです。

リーダー次第で選手の能力が開花させることが出来るという良いお手本ですね！（寿）



当事務所のお客様の最近の黒字決算割合（TKCが証明するデータを使用しています）

最近1年間：68.8%

前年同時期：81.3%

創業の目的を達成するためにも・・・黒字決算を目指しましょう！